

教員名： 浅利 宙 指導教科： 法社会学

① 研究・関心領域内容

講義では法社会学の主要な研究テーマと社会学的アプローチによる研究例の紹介と検討をしています。自分自身は、家族・地域社会・社会福祉関連のテーマに関心をもっており、現在は特に家族支援活動を行っているセルフヘルプ・グループ、当事者集団の調査研究等を中心に行っています。そのなかでも遺族支援活動を展開しているセルフヘルプ・グループの事例研究は20年をこえるものになっています。

② 自己紹介<こんな学生を募集しています>

自分なりの研究テーマ(研究、調査したいこと)をもっている学生を歓迎します。教員側からテーマを指定してほしい方や、題材を提供してほしい方は苦勞するかもしれません。また、受講生それぞれ自分の研究について報告してもらうので、自分自身のテーマだけでなく、さまざまなテーマに興味関心を抱くことのできる方が望ましいですし、参加しやすいと思います。

③ 現在の人数： 三年生 2 人 四年生 2 人

④ ゼミのテーマ、方針、学習・研究内容

3 年前期は社会学系の基本文献の検討を通して社会学の視点について理解を深め、3 年後期以降は、家族・地域社会・社会福祉の領域を中心に受講生各自でテーマを設定し、社会学、ならびに法社会学分野における研究の動向や現状について情報整理と分析、考察していくことを基本方針としています。現在の受講生の研究テーマは、地域コミュニティや教育格差などとなっています。

⑤ 授業形態(発表、討論、講義など)

授業では、教員が講義するのではなく、基本的には受講生の報告が中心になります。各回、担当者を決めて報告していただき、質疑応答を通して理解を深めていきます。今年度は、1 回あたりの報告者数が 1~2 名、1 名あたりの報告の頻度は半期で 2 回程度となっています。報告だけでなく、質疑応答にも積極的に参加してもらいます。また、学期末には自分自身の研究内容の整理と質疑応答への対応、今後の方向性を確認するために、期末レポートの作成を課しています。

⑩ 最後にゼミのPRをお願いいたします!

法社会学は、社会学同様、伝統的社会から近・現代社会の諸相に至るまで、非常に研究テーマの幅が広い学問領域です。「ゼミのテーマ、方針、学習・研究内容」では家族・地域・社会福祉と書いていますが、絶対にそうでなければならないというわけではなく、また、狭い意味での法社会学の領域に限定することもなく、指導できそうなテーマや興味深そうなテーマであれば受け入れています(といっても、社会学の視点からの検討という条件はつきます)。自分の問題関心を深められそうだった方は、ゼミ見学に参加して様子を確認したり、面接を受けてみるといいかと思います。

⑥ 現在のゼミの様子、雰囲気

基本的に報告はしっかりしているように思います。難しいときもあるかもしれませんが、他の人の報告内容に対しても、自発的に質問等をしてくれるとありがたいです。あまりにも静かなときは、指名してコメントしてもらうようにしています(その方が話しやすい方もいるようです)。

⑦ ゼミ生に希望すること

演習は学生が作っていく面が大きいので、報告だけでなく、質疑応答にも積極的に参加してもらうことを期待しています。それから、期末レポートは必ず作成してもらっていますが、それに代えて論文を書くことも推奨しています。

⑧ 成績評価の方法

ゼミの参加度(出席だけでなく、授業中の質問等も含む)、報告内容、期末レポートの内容によって総合的に評価します。

⑨ ゼミ生の選考方法

演習の目的や内容をきちんと説明するために、個別面接を実施します。面接を受ける際には、あらかじめゼミを通して勉強したい内容を考えておいてください。